

国語 第4学年 いろいろな意味をもつ言葉 検討会の想定問答

指摘 1: この単元で身に付けることは何か。

返し: 同じ言葉が文によって異なる意味を表すことを知り、前後の言葉を根拠に意味を説明する。辞書の最初の意味だけを当てはめない。 B(1)エの学習として、同じ言葉を使う文、文中の意味、意味を判断した前後の語。

指摘 2: 何をもって学習できたと判断するか。

返し: おおむね満足できる状況は、自分の文章を読み返し、前後の内容に合う意味で語を使っているか確かめているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。 B(1)エの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3: 活動が楽しいだけで終わらないか。

返し: 同じ言葉を使う文、文中の意味、意味を判断した前後の語を残す。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、B(1)エに関わる学習の中身をかめる。

指摘 4: つまづく児童にはどんな支援をするか。

返し: 同じ表記ならいつでも同じ意味と考える、文の前後を読まず辞書の意味を写す。これに対して、独自例「眼鏡をかける」「声をかける」を比べ、動作を絵や言い換えで確かめる。児童の例は文全体で聞き、意味の近いもの同士を分類する。〔知識及び技能〕(1)オとB(1)エを切り離さず扱う。

指摘 5: 考えが違ったときはどう扱うか。

返し: 教師の結論を選ばせず、「この文の言葉は、何を表していますか。ほかの文でも同じ意味ですか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、B(1)エに関わる根拠を話し合う。

指摘 6: 本時の評価で態度まで決められるか。

返し: 本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7: 端末がない学級でもできるか。

返し: 同じ言葉を使う文、文中の意味、意味を判断した前後の語は紙に記録できる。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をB(1)エの評価の代わりにしない。

指摘 8: 時間が足りないとき、どこを残すか。

返し: 総時数の出典は光村図書出版の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。B(1)エで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9: この教材で、誤りやすい点をどう確かめるか。

返し: 同じ表記ならいつでも同じ意味と考える、文の前後を読まず辞書の意味を写す。独自例「眼鏡をかける」「声をかける」を比べ、動作を絵や言い換えで確かめる。児童の例は文全体で聞き、意味の近いもの同士を分類する。

指摘 10: 振り返りを感想だけにしないためには。

返し: 「この文の言葉は、何を表していますか。ほかの文でも同じ意味ですか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。B(1)エに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

